

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	インド・ビハール州におけるサッカー指導、教育を通じた少年少女の成長支援事業
(2) 実施団体名	一般社団法人 FC Nono
(3) 実施期間	2023 年 10 月 16 日～2024 年 10 月 15 日
(4) 実施国	インド共和国
(5) 活動地域	ビハール州ガヤ県
(6) 活動概要	
①活動の背景： 代表の萩原は 2021 年 3 月より、公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）が外務省の日本 NGO 連携無償資金協力（通称 N 連）スキームを活用して実施していた農村開発事業（有機農業の技術普及を通じた貧困農民の所得向上事業）の駐在員として現地へ渡航して、当該事業の管理を行っていた。業務時間外の時間を活用して、周辺貧困地域の子ども達にサッカーの指導を開始したことをきっかけに当チームを創設。 サッカーの指導と子どもたちとの交流を通じて、活動に参加する子ども達が抱える問題が見えてくるようになった。具体的には、子どもたちの自立を促進する機会や教育環境の欠如、カースト身分やジェンダー差別、栄養失調、衛生環境などがあげられる。代表の萩原自身が 19 年間のサッカー経験者であり、サッカーをフックにこれらの問題の改善・解決を図る事ができると認識し、こちらの活動を本格化するようになった。NICCO におけるプロジェクト及び駐在は 2022 年の 6 月に終了したものの、萩原自身は現在も現地に残り、ボランティア活動としてこちらの活動の継続と拡大を図っている。 「努力が報われる社会の実現」をチームのビジョンとして、「インドの子どもの夢の実現のサポート」をチームのミッションとし活動を実施する中で、これらの実現のためには子どもたちの心身の健康と自立が不可欠であり、複合的な事業を展開中である。	
②活動の目標： インド・ビハール州における子ども達の教育機会の欠如、カースト制度やジェンダー差別、栄養失調、劣悪な衛生環境といった外的な要因に対して、主にサッカーを通じたスポーツ指導や栄養にかかる教育活動を通じて「子どもの居場所」と、「自己表現する機会」を創出し、子どもの成長支援を行う。	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

・サッカーの指導：当団体の活動拠点であるブッダガヤ及び周辺地域でのサッカー指導を実施。サッカーの技術向上だけではなく、遠征試合や域外の子ども達・団体等との交流による社会性やライフスキル等の取得を目指す。

- ① サッカー指導：通年を通したサッカー指導者の育成、子ども達にサッカーを教える機会の提供。
- ② 女子児童の遠征：他都市で活動する女子サッカーチームの活動を訪問し交流を実施。
- ③ 男子児童の遠征：他都市で活動する男子サッカーチームやサッカーコーチとの交流を実施。
- ④ 隔離農村部での出前練習：ガヤ州の中央部活動地以外での農村部での出張練習を定期開催。より多くの子ども達への交流機会提供と、FC Nono チームの指導機会の提供。

・栄養・衛生にかかる調査及び教育：子ども達の食事・栄養調査を実施することで、栄養失調状態を把握し、栄養改善に向けた教育コンテンツ更新や衛生環境改善に向けた啓発活動を実施する。

- ① 栄養・衛生調査：調査を実施し、栄養失調状態の課題や衛生環境改善にむけた施策を検討。
- ② 保護者むけ学習会：保護者への情報発信や関係構築体制の強化。アッチーアダートの開催。

・広報活動：インド国内、日本国内でのサポーター獲得や認知度向上にむけた広報活動を実施。現地にてインフルエンサーとして活動する日本人のアドバイザー獲得により、広報動画を作成。同基金実施期間中にインドの関係機関や企業、国内のスポーツチームと連携した広報活動を実施。

(2) 実施成果：

主な全体をとおした活動の成果は下記

- ① 現地プログラム運営体制強化：現地側のコーチの見直しと体制変更を実施。実施期間中に採用した常駐コーチによる指導プログラムの確立と、子どもコーチ制度による現地指導体制の強化。
- ② 保護者との関係強化：保護者むけの Code of Conduct を期間中に完成し全保護者に回答頂いた。また遠征プログラムへの保護者同行による活動への理解促進や意見交換の体制を強化。子供のセーフガーディング指針（子供にとって安心安全な組織・事業づくり）も専門家と共に設定。
- ③ 新しい教育プログラムの確立：サッカー指導に限らないライフスキルセッションを開催し、子ども達の将来にむけ必要な知識（意思決定、問題解決、対人コミュニケーション等）を共有。
- ④ 持続的な運営にむけた整備：インドでの法人登記「NOZOMU FOUNDATION」を完了。デリー最大手のNGO「Ladli Foundation Trust」とパートナーシップ契約を締結し、インド側でのCSR資金調達の体制を構築し、共同事業実施にむけて意見交換中。また複数の民間企業との共同プロジェクトと資金調達にむけて交渉中であり、同基金の実施期間に多くのコネクション構築が出来た事も大きな成果の一つである。

（３）得られた教訓など：

- ・子供にとって安心安全な活動とするため、保護者との関係構築や仕組みづくりの重要性を改めて同事業中にチーム全体で話すことが出来た。
- ・萩原が行っていた現地でのサッカーコーチの活動を、現地コーチ採用によって子ども達に安定した指導を行う体制が出来、チームの運営や資金獲得等の動きを萩原が出来るようになった。
- ・遠征活動を通じた男子、女子児童の精神面での成長がとても感じられたこと。ビハール州に生まれた時から外の環境を自分の目で見ることのなかった子ども達にとって、都市部の実態や他の地域の子供達との交流は成長にむけたとても良い機会となっており、学んだ内容を他のチームメンバーや遠隔農村部の子ども達むけに実践する事でより成長促進につながることを改めて感じた。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

- ・インド側での Ladli Foundation Trust とのパートナーシップによる現地活動や資金調達の加速を目指す。
- ・ライフスキルセッションも含めたカリキュラムの構築と、成長指標の設定を行うことで、子ども達の成長への貢献度の回収や、より良いプログラム設定を行う。
- ・スポーツと社会開発について、日印で認知度を向上するための、両国関係者やスポーツ関係者むけのサミット、イベントの開催により FC Nono の認知度向上と、広報を実施する。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

- ・保護者から子ども達の成長があったとフィードバックを受けたこと。
- ・活動に官民の関係者から支援や連携をしたいとのニーズが寄せられたこと。

(2) 活動の写真



女子児童 Jharkhand 遠征



女子児童 Jharkhand 遠征



女子児童デリー遠征



男子児童デリー遠征



男子児童デリー遠征時にJICAインド事務所と協働でアッチーアーダットキャンペーンの活動を実施



デリーの在インド日本国大使館を表敬訪問し、経済班の小寺参事官と面会、ディスカッション



在インド日本国大使館の書記官の皆様のご子息と一緒に練習を実施



鈴木大使が活動地のビハール州を訪問し、活動を見学

（３）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

上述の実施成果にも記載のとおり、同事業により、「子ども達の成長促進」・「現地活動基盤整備」・「継続的な運営にむけた組織体制の構築」のいずれにおいても団体の成長につながった。

FC Nono はスタートしたばかりの団体でもあり、組織基盤の整備や活動実績の見える化が求められていた中、同事業では団体運営に必要な仕組み作りから、現地コーチの採用、資金調達計画の策定まで今回の事業を通じて得られた知見や成果を元に構築できたことが一番良かったと考える。

インド側での JICA との協力関係の強化も、現地での関係者との接点創出や円滑な活動運営に繋がった。